

酒造りの伝統と文化生かせ！ 評価配点基準の見直しを！

(株)よしかわ杜氏の郷の株式譲渡に関する株主・地元説明会が24日、吉川コミュニティプラザで行われました。区内の住民の関心は高く、30人ほどの人たちが集まりました。

説明会では、五十嵐産業政策課長がこれまでの経過、企画提案型のプロポーザル方式を採用した公募による市保有株の民間譲渡を行うこと、その場合の公募条件などについて説明したのち、参加者から質問や意見、提案などを受けました。

発言者は地域協議会役員、元町議、

杜氏経験者、東京パルシステム関係者、杜氏の郷の元スタッフなど7人でした。それぞれ、「地元外の会社が受けたとき、地元の意思が反映されるか不安がある。地元で受け手があれば、そこを最優先してほしい」「選定委員のみなさんからは、机上での審査ではなく、酒蔵の現場をきちんと把握して、対応してもらいたい」「(株)杜氏の郷設立当初の吉川の思いをなくしてもらいたくない。新会社がいまの従業員を継続雇用するようにしてほしい」「吉川さんは都市と農村をしっかりとつ

ないだ食糧基地だ。(生協と市と会社で)協定を交わし、長年やってきたが、評価基準での『理念の継承』の配点は低すぎだ。これではしっかりとできるか不安が残る」「(こ

れまでの発言は)地元愛で埋め尽くされていくが、いままでどうだったか検証されてきたのだろうか。新しい経営戦略が必要だ。業界は厳しいが伸ばしているところもある。行政も会社も自己反省が必要だ」「吉川は日本酒のルーツといってもよいほどの歴史がある。『高校生が酒を造った町』『夏子の酒』などでも紹介されている舞台はこの町だ。地元の企業が地元のために働くという最低限のことをやってもらいたい」「民間譲渡など3つの選択支外になかったのか。先日の市議会の所管事務調査でも第三セクターとしての継続発言があった。兵庫県(三木市)吉川町(よかわまち)では、『山田錦の館』を造って頑張っている。何を改

善したらいいかなど、赤字だからと言って民間譲渡する前にやるべきこと、議論すべきことがあったのではないかなどが熱が入っていました。発言を聞いていて改めて思ったのは、吉川区には酒造りの伝統と文化が根付いていて、そのことを誇りに思っている人が多いということです。そして全国的にも有名な、この「杜氏の郷」をすたれさせたくない、これを生かしたまちづくりを進めていきたいという思いが強いことです。発言者の熱い思いをしっかりと汲んで取り組みを見直してほしいものです。



【イヌ又マトラノオ】
(再掲) サクラソウ科の多年草。漢字で「犬沼虎尾」と書きます。花期は7月～8月、高さは40㌢～70㌢ほどです。オカトラノオと又マトラノオの雑種かと思えます。花言葉は「たくましい」です。写真は6月23日、吉川区小苗代地内にて撮影しました。



久しぶりに落語口演会

私も会員である「夢をかなえる会」主催の落語口演会が26日、吉川区多目的集会場で行われました。

川柳(かわななぎ)つくしさんと三遊亭白鳥さんがそれぞれ古典落語と創作落語を披露してくださいました。お2人の落語を聴くのは3年ぶりになりましょうか。

つくしさんは、名前の読み方をめぐる話を面白く語りました。そして白鳥さん、母親とともに燕温泉に行ったことを題材にした創作落語は何度も大笑いしました。



はしづめ法一の 活動レポート

No.2067 2022.7.3

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見た
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七一四回 三年ぶりの小旅行

先日、地元町内の老人会で三年ぶりに小旅行をしました。といっても、車で一〇分くらいのホテルへ行き、風呂に入り、懇親会をやっただけなのですが……。

参加者は六〇代後半から八〇代までの男女一人。集落のほぼ真ん中にあるバス停までホテル側からマイクロバスで迎えに来てもらい、帰りも送ってもらいました。

ホテルに着いて、休憩室兼懇親会場となる大きな部屋に入ると、海が見えます。何人かが、「きれいな海だね」「船に乗っているようだ」と言いましたが、会場の北側の窓からは海面を見下ろす感じなのです。

沖の方では、漁船と思われる小さな船が一隻、ゆっくりと移動していました。後の方に少し黒みがかかった浮きのようなものを引いていて、見ていた人たちは、「網をおろしているんだろうか」と言っていて眺めていました。

会場に着けば、たいがいはまず風呂に入り、それから懇親会となるのですが、お風呂は午前一時からということなので、時間がありません。待っていましたとばかりに、楽しいおしゃべりが始まりました。

まずはカボチャの話から。もうカボチャを食べたという人がいて、「どういう状態になると収穫できるのか」という質問が出ました。S子さんが、「カボチャの実の上のツルがコルクのようになる」といって、隣のM子さんも、「そこに穴が開いたように点々ができるんだよね」と言いました。

久しぶりにゆっくりとみんなで話す機会ができたものだから、タヌキを見かけることが今年はないとか、ヘビがキュウリの棚の上についてびっしょりしたなど、話は次々と出てきます。

お風呂に入ってから、懇親会は正午から開始。男性陣は四人が中ジョッキの生ビール、私がノンアルコールのビール、女性陣

は小ジョッキの生ビールで乾杯しました。

テーブルの上にはアクリル板の仕切りがあり、酒を注いで回すことはほとんどありませんが、他は以前とほぼ同じです。生ビールのジョッキは久しぶりに見ました。料理は刺身、カサゴのから揚げなどが出てきて、宴会ならではの料理に舌鼓を打ちました。

懇親会でも楽しみみの中心はおしゃべりです。参加者の中で二番目に年長のSさんはお寺さんです。お寺の境内にある鐘突きの話に引き込まれました。

「昔は午前十一時半に鐘を鳴らしたんだよね。その鐘の音を聞くと女しよは仕事をやめて昼ご飯を作り家に帰る。男しよは衣服吸いつけて、もつひと働きするんだ」

話を聞いていた人たちは、みんなこの種の体験をしていますから、昔のことを懐かしく思い出しました。

Sさんは続けて、「鐘の音でも一番いい音は夕方だね」と言いました。「夕方、鐘、突いていたの」という質問が出ると、「突いていないけど、いいと思う」。聞いていた人たちみんなが、夕焼けの中、ゴーンという音が静かに響き渡っていく様子や、柿崎駅の近くの鉄橋を渡る電車の音も話題になりました。

参加者の年齢は七十代、八十代が多いので、どうして話題の最後は人生の終盤のことになります。

「先日亡くなったS子さんは、お連れ合いのやさしい歌の声にひかれて旅から嫁に来た」。「いなくなる前に整理しておけ、と子どもに言われている。あの植木、どうするがとも」

ちよっぴりさみしい気持ちになりました。でも、みんなで小旅行に出て一緒に楽しむのは最高です。満足感最後に食べたメロンの味と同じ、ベリーグッドでした。

月影歌謡祭、今年も楽しく

6月26日、2回目の月影歌謡祭が行われ、歌や踊りを好きな人たちが浦川原区横住の月影の郷に集まりました。

出場者は61組。午前11時から始まり、お昼休みなしで終わりまで約5時間かかりました。私は都合があって、12時半過ぎから40分間だけ観させていただきました。

桜幸さんの「アメイジンググレイス」、歌っているときだけでなく、踊りのときも素敵でした。関谷和子さんの「翼をください」、

高橋春美さんの「米原の雪」にはしびれました。昨年初めて見せてもらった笹崎洋子さんの踊り、「あばれ松」、今年もきびきびした動きでした。石川忠夫さんが歌う「男の港」に合わせて、中村俊昭さんが踊りました。この中村さんの踊りを観て、舞踊のイメージが変わりました。男性の踊りってかっこいいですね。

会場には梅谷衆院議員や矢野元県議の姿もありました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月22日(水)	6月29日(水)
上越南消防署	0.050	0.053
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.060	0.057
東頸消防署	0.047	0.043
名立分遣所	0.050	0.060
高士分遣所	0.040	0.047

